

あきらめていた「家族旅行」を、もう一度。

Good Time

人生で一番輝くとき“グッドタイム”



井植
基温のグッドタイム

三洋電機を牽引した現役時代と変わらぬパワーでセカンドライフを謳歌

春山 満語録

第五回『若者よ、だまされるな！』

文句ばっかり言って、無いものねだりばっかりしてたら、日本沈んでしまうぞ

【編集後記】人生100年時代、元気に老いるコツ

【言の葉】第四回『寿命』

05
2018.July

井植 基温のグッドタイム

三洋電機を率引した現役時代と変わらぬパワーでセカンドライフを謳歌

井植 基温のグッドタイム
三洋電機を率引した現役時代と変わらぬパワーでセカンドライフを謳歌

井植 基温のグッドタイム
三洋電機を率引した現役時代と変わらぬパワーでセカンドライフを謳歌

春山 哲朗

（以下、春山） 井植さんは三洋電機（現パナソニックグループ）の創業者一族としてお生まれになられて、いつ頃からそのことを意識されるようになられたのでしょうか。

三洋電機創業者一族としての責任と重圧を受けいれて

井植 基温 Motoharu Iue

昭和11年9月17日生まれ。昭和34年、三洋電機株式会社入社。昭和52年、常務取締役冷凍機事業部長就任。平成4年、サンヨー・ノースアメリカ・コーポレーション代表取締役就任。平成11年4月、三洋電機株式会社 専務取締役、同年6月、代表取締役就任。平成14年6月、相談役就任。平成18年3月、相談役退任。

関西経済連合会 評議員
関西生産性本部 国際交流委員長を経て、現在・特別参与
日中経済貿易センター 副会長を経て、現在・顧問

父親が長男である私を手元に置きたいと思つたこともあり、大学は関西に。実は、私自身は早稲田大学の工学部を目指していたのですが、父親に諭されて同志社大学に進学することにしました。多分、親元を離れると何をするかわからず心配だったのかもしれません。早い段階で人生のレールが敷かれたことは、ありがたかった反面、新しいことができないというジレンマを感じましたね。

春山 ご自分の意思を貫いて違う道へというお気持ちにはなられなかつたのですか？

井植 親に反抗する勇気がなかつたということではなく、幼い頃より、常に父親から会社の話を聞いていたので、そこは「門前の小僧習わぬ経を読む」というか。もちろん興味もあつたので、三洋電機の一員になることに抵抗する気持ちは少なかつたですね。

三洋電機創業者一族としての責任と重圧を受けいれて

敷かれた人生のレールをただ走るのではなく、 新たな路線を模索しながら疾走した若き日々。

入社当初に配属されたのは資材部でした。三洋電機はモノづくりの会社だから、モノづくりの基本の基本からしなさいと。そこで部品や材料についての知識が深められたことはその後の私の大きな武器になりました。というのも大学が経済学部で技術系の知識がほとんどなかつたのですが、しばらくすると技術者と日々発止のやり取りができるまでになっていましたから。

入社後の2年で外注課、材料課を経て、製品づくりに関する一通りの知識を習得しました。私を育てようといろいろな仕事を経験させてくれた親には感謝しかないですね。

アメリカでの冷蔵庫市場の開拓へ ゼロからのスタート

春山 その後、アメリカへ赴任されますが、それはいつ頃のことですか？

井植 1978年頃からですね。アメリカ赴任のきっかけは、冷蔵庫。アメリカでは当時、ドミトリーや寮で多く使われる個人向けの小さな冷蔵庫の需要が高まっていたんです。アメリカ国内のメーカーが作る冷蔵庫のサイズは最低でも300リットルだったため、小さいサイズは外国のメーカーから輸入していました。三洋電機もそのうちの一社でした。初めのうちは国内で作った完成品

をアメリカへ輸出していたのですが、1973年ごとに為替相場がそれまでの固定制から変動制になった。1ドル360円から、どんどん円高に。その動向を受けて、今までより3割4割ほど経費を削減しないと利益が出ないと。じゃあ、アメリカ市場向けの製品はアメリカ国内で作ろうという

方針が決定。その責任者として白羽の矢が立ったのが私でした。その時、父親に言われたんですね。「日本の三洋電機には先輩たちがいっぱいいる。日本は彼らに任せて、お前は三洋の西部開拓者になれ。日本より大きな市場をもつアメリカに三洋の市場を開拓しろ」と。もともと創業者が「海外に100社を」と、常日頃から方針としていたことがありました。三洋電機は海外進出には積極的だつたんですね。

その背景として、戦前から日本には松下電機、シャープ、東芝、日立、三菱など大手電機メーカーがたくさんあり、戦後に創業した三洋電機に日本

のマーケットの開拓は難しかつたということもありました。

春山 アメリカでの市場開拓は立ち上げのとき

から闘わられたんでしたね。

井植 はい。工場の建設から現地へ赴きましたから、当時は事務所もなかったんです。口サンゼルスのホテルやモーテルなどを事務所代わりにしていましたね。工場の立地はカリフォルニア州サンディエゴ市。幅100m長さ300mというサンディエゴ

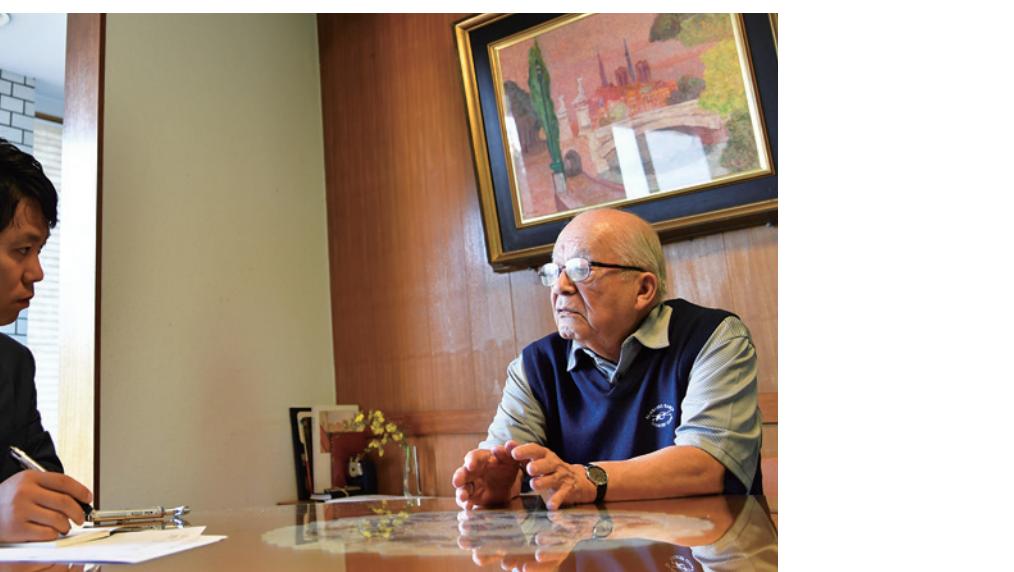
で一番スケールの大きい工場という規模でした。建築に1年はかかると言われたのですが、工期を6ヶ月に縮小。アメリカでの市場を逃さないために時間をかけられませんでしたから。そのときに誕生した「サンヨー・ノースアメリカ・コーポレーション」が原点となりました。現在でも同市では一番大きい工場だと思いますよ。

春山 そこで、小型冷蔵庫に特化した販売戦略を展開されたんですね。

春山 なるほど。地域貢献されたわけですね。井植 これは、あまり知られていないかもしませんが、アメリカ本土でアメリカ市場向けの冷蔵庫を作ったのは三洋電機だけなんですよ。ピーチ時には100万台作りましたね。

春山 なるほど。地域貢献されたわけですね。

井植 これは、あまり知られていないかもしませんが、アメリカ本土でアメリカ市場向けの冷蔵庫を作ったのは三洋電機だけなんですよ。ピーチ時には100万台作りましたね。



下の打数でホールアウトすること。ゴルフ場では

一ラウンドの規定打数バーが72に設定されていますが多くのシニアプレイヤーの方が達成していますよ。年齢を重ねてもチャレンジすることは人生には大事だと思います。

成しやすくなるわけです。プロ選手だと青木功さんが達成していますよ。年齢を重ねてもチャレンジすることは人生には大事だと思います。

春山 井植さんのその元気の秘訣は何なんでしょうか?

井植 私のモットー「Plan・Do・Check・Action」ですかね。一口一匂い小さなことでもよいので「今日は、何をしよう」とその日のテーマをまず考える。実際に行動した後は「これは、もうやったな。じゃあ、次は何をしよう。これをやってみようか」「あっちがダメなら、こっちの方法でやってみようか」など、自分の行動の見直しを図りつつ、必要な改善策を考えます。頭を使って行動の管理サイクルを作り、生活を回している。そうすると暮らしに現役感が生まれ、気力も充実します。気力があると新しいことをやってみようという気持ちにもなりますから。

家族の変遷を後世に伝えるために
「自分史ノート」を書き綴る

春山 80歳を超えた今だからできる」と、やつておきたいことがある。

自分のため、子どものため、地域のために。

80歳を超えた今だからできる」と、やつておきたいことがある。

井植 年齢を重ねるなかで、ひとつアペレージとして、親の死んだ年齢を超えるまでは死ねないという思いはずっとありました。創業者の伯父を

はじめ、父たち三人兄弟のうち一人が77歳、一人が66歳で亡くなっています。だから、77歳がひとつの目標だった。今の日本男子の平均寿命は徐々に上がっていて、81歳はちょうど平均値ぐらいでしよう。その数値を上に引っ張っているグループもあれば、下へ引っ張るグループもある。できたふ、上へ引っ張るグループでありたい。元気で健康であることを絶対条件としてね。

終活のひとつとして、人生の年代別に起こったハブニングを自分史ノートとして、全部書き留めているんですよ。今も進行中です。小学生時代、中学生時代、高校生時代、大学時代……。仕事や社会生活のこと、結婚したとき、子どもを授かったとき、家族の変遷、そして退職、その後のことまでね。何のためかというと、子や孫、その子どもたちに二代前三代前にこんな人がいたんだということを伝えたいから。というのも、私は三代前にいての知識があまりないんですよ。それが悲しい。だから、家族の絆として残していくあげたんです。これを読んだ下の世代の人たちが「ああ、そんな人やったんか」とわかつてもらえる。等身大の私の姿を残していくようにしておきました。

仕事を離れて自由人となつた
今が私の「グッドタイム」

春山 この冊子のテーマですが、井植さんにとってのこれから「グッドタイム」とは?

井植 グッドタイムっていうのはポイントじゃなしに、期間ですよね。人間、いつ死ぬかわからないから、あと、どれだけ楽しめるのかなど。社会規範に反することじゃなければ、今はいろいろ自由に、好きなことができる時代でしょう。たとえば言論の自由もあるし、集団結社の自由もあるから好きなテーマでグループだって作れるし。仕事の第一線を退いた年齢層の人間には面白い期間になるんじゃないかな。麻雀とかカラオケをするのもいい。私はカラオケ、ブールやマッサージなど大人数が集まっている場所へ、意識して行くようにしているんです。そこで、いろんな人と話をしていると「こんなことがあるなんか」と新しい気づきや発見がたくさんある。ずっと電機業界のなかで生きてきましたが、今は枠に囚われないおつきあいができる、楽しい。高齢者に限らず、引きこもつていなくて地域の人と積極的に交流し、いろんな年代の人と交わることが大切。地域が活性化され、新しい人間関係も築けて人生が豊かになる。日本は今や人生100年時代。老人に意義あるお金の使い方をさせる方法を国にもっと考え

てほしいと思う。超高齢社会の大変な課題です。このテーマは、春山さんの仕事にも関わっていなかったはず。私たちの人生を豊かにしてくれるいいアイデアやサポートを期待していますよ(笑)。





Editor's Note
by Tetsuro Haruyama

春山 哲朗 編集後記

05

人生100年時代、元気に老いるコツ

4月下旬、まだ新緑が美しく輝く季節。今回のゲストである井植 基温さんと会うために群馬県を訪れた。大阪府出身である井植さんが何故群馬県に住まいを移されたのかについては太田市を案内されて納得できた。創業家として井植さんが牽引された三洋電機の超大型工場がこの群馬県太田市にあるためだ(現在はパナソニックグループの工場として稼働中)。当時、三洋電機の国内外合わせた生産拠点のなかで第2位の出荷量を誇っていたそうだ。

井植さんとのご縁は弊社創業者春山 満と新商品の共同開発をしたことに始まる。井植さんの現役当時に僕はお会いしていないが、父が他界した後、ご自身が開催されている異業種交流会への参加をお誘いいただいた。80歳を超える参加者は井植さんだけだが、心の老いを全く感じさせないのが不思議でならない。

今回のインタビューを通して改めて気づいたことがある。それは、「元気に老いる」にはコツがあるということだ。今や平均寿命とか健康寿命という言葉は日常的に使われ、「人生100年時代」と報道されることも多い。しかし、実際のこところどれほどの人が健康に老いることができるのだろうか? 健康とは心身ともに健やかな状態を意味する。食べ物はもとより医療やサプリメントなどの充実により、体の健康は以前より維持できているが、年齢とともに運動機能は低下していく。これは生き物として抗えないことである。

春山 哲朗

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル
代表取締役

1985年、春山 满の長男として生まれる。高校を卒業後ハワイの大学へ留学。その後、アメリカネバダ州のUniversity of Nevada, Las Vegasへ編入。2007年、春山 满からビジネスを学ぶため、(株)ハンディネットワーク インターナショナルへ入社。2012年、同社 取締役に就任。2014年、代表取締役に就任。MBSラジオ「失くしたものを数えるな! 大丈夫や~!!」のパーソナリティを務めた。

2015年、新事業「グッドタイム トラブル」のサービスを開始。

著書に「脳から血へなるほど考える!!」「若者 よだまされるな!」(週刊住宅新聞社)がある。

しかし、心の老いは別物だ。ここで井植さんの行動に注目したい。常に新しい情報を収集しようとされ東京、大阪そして年に1回はサンディエゴまで行かれている。自分の興味に対して徹底して自ら追いかけるその姿に、だからお元気なんだと納得した。体が元気だからするのでなく、心がやりたいということを妥協せず自らのペースを崩さず継続されている。30代、40代のときの自分と比べず、80歳になつた今の自分ができることを100%でやり続けられている。

井植さんのような老いを迎える人が増えれば、「人生100年時代」、悪くないかもしない。インタビューの最後に井植さんから「人生を豊かにしてくれるいいアイデアやサポートを期待している」と言われた。まさに、僕たち現役世代へ投げかけられた命題であり、これに答えを見い出すことがこの「人生100年時代」に生きる日本人の宿命であると思う。

日本人の平均寿命は男性が80歳、女性は87歳となり、世界でもトップクラスの長寿国となっている。かつては、『人生七十古来稀なり』と古希を祝つたのであろうが、現在は米寿、卒寿、白寿のお祝いも稀ではなくなってきた。それぞれ88歳、90歳、99歳のお祝いだ。最近は更に、108歳、111歳になられると茶寿、皇寿のお祝いをされる方もおられるようだが、私は未だ出会ったことがない。そんなご長寿の方はきっと生涯お元気で病気には縁のない方かもしれない。グリム童話に寿命に関する寓話がある。人は30年の寿命を神から与えられたが、これでは短すぎると神様に訴え、ロバから12年、犬からは18年、猿からは10年ずつもらつた。だから人が人らしく生きられるのは30年でその次の12年は馬車馬のごとく一生懸命働き、次の18年は犬のように吠えたて、最後の10年は猿のようにならだけになり、思考力も衰えていくという説話だ。時代とともに、寿命は20年近くのびた。いつたいどんな動物から更なる寿命をゆずりうけたのだろうか?

さて、平均寿命とは別に自立した生活を送つていただける期間を健康寿命という。これは平均寿命より男性は9年、女性は12年短いと言われている。ということは、人生の最終章では10年ほどは誰かの世話をしならなければならないということだ。人の助けを借りても生き続けたいと願っている人もいれば、人のお世話をなるのは心苦しいと感じている人もいる。どんな生き方

Column
by Manabu Tamura

言の葉

04 寿命

ホームドクター田村 学

日本人の平均寿命は男性が80歳、女性は87歳となり、世界でもトップクラスの長寿国となっている。かつては、『人生七十古来稀なり』と古希の時が、早すぎても遅すぎても程度の違いはあっても苦しさが伴う。

寿命とはなかなか厄介なものが、ちょうど良い死に時だと眠るように静かに旅立つことができる。ちょうど良い時、それは、やるべきことをやつて、言うべきことを伝えて、自分の人生に納得できた時にやつてくるのではないかと日々の死に立ち会つて思う。



田村 学

医療法人学緑会
おおさか往診クリニック
理事長

1989年 大阪大学大学院医学研究科博士課程修了
1992年 マサチューセッツ州立大学メディカルセンターアシスタントプロフェッサー
2001年 大阪大学医学部耳鼻咽喉科准教授
2008年 おおさか往診クリニック開設
2009年 日本在宅医学会理事
2010年 大阪大学医学部臨床教授
著書:『風になった医師』
『MITORI:End-of-Life Home Healthcare in Japan』



Message
by Mitsuru Haruyama

春山 満語録

05

「若者よ、だまされるな！」

一番弟子とドラ息子の運命も変えた。
カリスマ車いす社長 魂のメッセージ。

文句ばっかり言つて、 無いものねだりばっかりしてたら、 日本沈んでしまうぞ

こんなに平和で、こんなに豊かで、こんなに安全で、こんなに平等なのに、いつのころからか、日本中無いものねだりばっかり。少しでも安く、少しでも楽に、もっと豊かに、そんなことばっかり言つてたら、この国なくなってしまうぞ。「失くしたもの数えるな」。この言葉が僕を支えてきた。難病になつて、足が動かなくなつて、手も動かなくなつて、寝返りすらできなくなつて。でもね、こうやつてしまはれ、聞こえる、見える、感じれる。このありがたさ、ここに気づいた。世の中には、頭のいい子も、器用な子も、成功する子もいるよ。不器用な子も、うまくやれない子もいるよ。だけどね、そんなことが大事じゃないんだ。失くしたもの数えないで、今あるありがたさを知つて、無いものねだりをしないで、自分の役割を果たしていくよ。人生の成功って、何なの？お金だけなの？「あの人がないと寂しいね」「あの人があるから安心だね」。それぞの役割とそれぞのポジションで、かけがえのない人になること、これも一つの大きな人生の目的じゃないかな。頼りにされる人になるよ。そして、みんなが、たつた一隅の小さな場所でも、小さな灯りで照らしていくよ。みんながそれぞれの隅をつたつた一つの小さな灯りで照らし出す。やがて国中が、希望と活力で照り上がる。一燈照隅、万燈照国。今こそここに向かおうよ。

(週刊住宅新聞社刊「若者よ、だまされるな!」より抜粋)



春山 満

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル 創業者

24歳より進行性筋ジストロフィーを発症し、30代後半には首から下の運動機能を全麻。1988年、全国初の福祉のデパート「ハンディ・コープ」を開業。1991年、ハンディネットワーク インターナショナル(HNI)を設立。介護・医療のオリジナル商品を開発・販売する。幅広いネットワークと、体験を通じた独自の視点と着眼で、大手医療法人の総合経営企画・コンサルティング、企業や自治体のプロジェクトに数多く参画。2003年、米国ビジネスウィーク誌にて『アジアの星』25人に選出。2005年、オリックス不動産(株)と共同出資し、高齢者住宅運営会社オリックス・リビング(株)を設立。2007年、公益財団法人国家基本問題研究所評議員就任。2008年、ハイシニアライフ協会 名誉理事就任。自身がパーソナリティを務めたMBSラジオ「若者よ、だまされるな！」は日本民間放送連盟賞 近畿地区 ラジオ教養部門 最優秀賞を受賞。2014年、進行性筋ジストロフィーによる呼吸不全のため60歳で永眠。

主な著書に「僕にできないこと。僕にしかできないこと。」(幻冬舎)、「若者よ、だまされるな！」(週刊住宅新聞社)、「僕はそれでも生き抜いた」(仁バブリッキング)など。



『若者よ、だまされるな！』

発行／週刊住宅新聞社
2012年初版発行
定価／本体 1500円+税



グッドタイム トラベルの新しい家族の旅
あきらめていた「家族旅行」を、もう一度。



僕は32年前、進行性筋ジストロフィーという難病を抱えた父の下に生まれました。父の歩く姿も自分で食事をする姿も僕は見たことがありません。

メディアを通じて存知の方も多いと思いますが、僕の父は首から下の運動機能を全廃した車いすの名物社長“春山 満”です。父は自らの体験から介護・医療関係の会社を創業しました。僕の幼少期から多忙を極めていた父でしたが、必ず守ってくれた約束があります。それは、僕たちの春、夏、冬休みに行く家族旅行でした。

当時はこの家族旅行を何ら不思議と感じませんでした。しかし、よく考えてみると車いすの父と介護をする母、そしてやんちゃな息子2人との家族旅行。誰よりも大変だったのは言うまでもなく母です。息子2人の世

話をするだけでも大変なのに、そこに超重度の父がいるわけです。これだけ大変な家族旅行にも関わらず続けられたのは、父中心の生活を送る母の強い想いからだったようです。それは、普段は子供たちの相手ができずにいるけれど、旅行中は思いっきり楽しみなさいと。だから僕たちは夏は沖縄の海へ、冬は岩手の安比高原へ行くことが定番でした。海では父を浮き輪に入れ僕たちが泳ぐ沖で浮かせたり、スキー場では車いすごとゴンドラに乗り込み雪山の山頂まで一緒に行ったりと、難病の家族がいるとは思えない家族旅行を結果的にやり続けてこられたのです。

超重度の父と29年間旅行を続けることができたからこそ、僕は伝えたいことがあります。体は年齢と共に老いますが、心まで老いる必要はありません。ときには諦めなければいけないこともあります。しかし、それは本当に諦めないといけないことなのでしょうか？固定概念や常識に囚われていないでしょうか？

僕は約3年前に社会のこの現状と自身の経験を基に旅行業“グッドタイム トラベル”を立ち上げました。高齢期を迎える体が不自由になったとしても諦めずに旅行をしていただけるサービスを提供しています。バリアフリー対応のお部屋や温泉、きざみ食の対応などお客様の要望にお応えし、ホテル・旅館のご紹介をはじめ、旅行時にケアスタッフ（トラベルケア アテンダント）を同行させるサービスまでワンストップでご提供させていただいている。

“あきらめていた「家族旅行」を、もう一度。”

多くの皆様にご活用いただければと願います。

株式会社ハンディネットワーク インターナショナル
代表取締役 春山 哲郎



「Good Time」
定期お届け便(無料)のご案内

「Good Time」は7月、12月の年2回発行いたします。是非、定期お届け便をご利用ください。店舗や施設の待合スペースでの設置も可能です。ご希望の方はご相談ください。

【お申し込み方法】

TEL:072-725-3388 FAX:072-725-3088

MAIL:goodtimetravel@hni.co.jp

お届け先のお名前・ご住所・お電話番号をお知らせください。

※お客様の個人情報は、厳重に保管・管理しております。お客様の承諾を得た場合を除き、目的以外での利用はいたしません。

「グッドタイム トラベル」はお客様のご要望にお応えする完全オリジナル企画旅行です。お客様やご家族だけでなくかかりつけのドクターやケアマネージャーの意見も反映させ、安心してご家族皆様に楽しんでいただける旅行をプランニングします。さらに、ケアスタッフ（トラベルケア アテンダント）を同行させていただき、ご家族の負担を取り除くとともに、介護を受ける方にもご家族に気兼ねなくお楽しみいただける旅行を実現します。

トラベルケア アテンダント

Travel Care Attendant (TCA)

介護職員初任者研修(旧ヘルパー2級)以上の資格を持ち、「グッドタイム トラベル」の教育プログラムを修了した介護のプロフェッショナルです。